



## 2007年度 町田JCスローガン 創始の「魂」を今ここに

一己を拓き扉を拓き いざ、道を拓かん



Junior Chamber International Machida  
Worldwide Federation of Young Leaders and Entrepreneurs

社団法人町田青年会議所(町田JC)は、我々の郷土、町田市の将来のあるべき姿を真剣に考え、その理想像に向かって邁進します。次代の担い手としての責任を自覚する青年(20歳~40歳)が集い社会発展のために運動を繰り広げております。

# 号外 緊急理事長対談!!

川島敏徳理事長 VS 寺田雄久次年度理事長 対談日: 2007. 10. 15

川島理事長(以下川島): 本日の対談では、次年度理事長であります寺田雄久君にお出でいただきました。まずは今年一年間を振り返ると共に、メンバーに対して、次年度に向けたメッセージをお伝えできればと思います。寺田次年度、よろしくお祈りします。

寺田次年度理事長(以下寺田): こちらこそ、よろしくお願い致します。

一本年度の担当ラインについて

川島: 寺田次年度には、本年度、筆頭の副理事長としてご活躍いただいておりますが、まずは担当されたラインについて、今年一年を振り返ってお話しをお聞かせいただけますか。

寺田: 本年度は地域政策室の担当の副理事長として、地域教育創造委員会と市民主権創造委員会の二つの委員会を受け持たせていただきました。まずは地域教育創造委員会ですが、「親子の絆プロジェクト」と題しまして、年間を通して勉強会や例会、境川クリーンアップ作戦などの事業を開催して参りました。「早寝早起き朝ごはん」といった生活習慣を整えるプロジェクトを行なってきましたが、これまで活動してきた反省点としては、参加者の動員が難しかったことが挙げられます。年間を通してプロジェクトとしての筋道を作ってきたのですから、もう少し、動員を伸ばすべく工夫ができたら良かったと思っております。今後はこれまでの成果を取りまとめ、11月2日の記念フォーラムで、講師である東條由布子さんに投げかけをして、お答えをいただきたいと思っています。



川島敏徳

社団法人町田青年会議所  
第40代理事長

川島: 参加者が少なかったのは残念ではありますが、HPなどを通して対外的には良い情報を広めることができたと思います。うまく記念フォーラムに繋げると共に、次年度以降の事業の足掛かりにしていいただければと思います。

寺田: 次に市民主権創造委員会ですが、まずは先日開催した「町田わいわいミーティング」に尽きると思います。事業開催に至るまでの間に、行政側と20回近い打ち合わせを繰り返してきました。当初は市の職員の方と一緒に事業をやることに不安もありましたが、回を重ねるたびに打ち解けてきました。市の職員の方からも、何としてもこの事業を成功させたいという気持ちが伝わってきました。市も委員会も入念に準備してきた結果、計画通りに事業を開催することができました。今後は報告書を作成することになりますが、この報告書の作成の仕方によって今回の事業の取られ方が違ってくると思いますので、今回参加して下さった方々の意見を基に、慎重に作業を進めていきたいと考えています。今回のような取り組みは町田JCでは初めてでしたので、非常に良いきっかけになったと思います。今後の事業展開がとても楽しみです。

川島: 行政の方も一市民であり、町田を愛している方が多いのです。一緒に連携して事業を行うことは難しそうに見えますが、ポイントさえ押えれば上手く事が運ぶと考えていました。今は地域行政から国を変えるという動きもありますし、今後こういった町田の事業展開が、全国各地へ飛び火してくれば良いと思います。これからも、地域行政に対する取り組みはもっと掘り下げて取り組んでほしいと思います。

一本年度の組織について

川島: 次は本年度の組織全体についてのお話しをお聞きしたいと思います。本年度副理事長として、また次年度理事長として、本年度の全体の組織運営についてはどのように見ておられましたか。

寺田: 本年度は、例年に比べて組織全体の人数に対して委員会の数が多く、各委員会の人数が少なかったと思います。各委員会が少ない人数で事業を作り上げる中、どの委員長も一生懸命やっているとありますが、例年と比較してこれ

社団法人町田青年会議所  
副理事長



寺田雄久  
(次年度理事長)

位で良いと考える委員長と、既成の枠を取り払ってどんどんやろうと考える委員長で、意識の差が出てしまったのかなと思います。それと、改めて自分の委員会以外の事業にも積極的に出席してほしいと思いました。私は何事も自分で経験しないと評価ができません。積極的に事業に出席して、その委員会の意図することを理解し、評価してあげてほしいと思います。

川島: 本年度の組織図についてですが、僕がやりたいことがこれだけの数あったということもあるのですが、それ以上に、一人一人に活躍の場をつくりたいとの気持ちを持っていたことが、委員会数の数に表れた理由です。一人一人の負担は確かに大きいかもしれませんが、一年間を乗り切ったことで大きな自信になったと思います。そんな中から、必ず次年度で突出して活躍することの出来るメンバーが出て来てくれるはずですよ。

一 出向について

川島: 寺田次年度理事長には、本年度は日本JCの近現代史教育実践委員会へ出向していただきました。そこでの運動についてお聞かせください。

寺田: 今回、私は自分で希望してこの委員会に所属させていただきました。何故希望したかという、2005年度の佐藤光一理事長の時に、三世代教育委員会にて日本の歴史について学ばせていただいたことがきっかけです。靖国神社にも行きましたし、教科書問題についても勉強させていただきました。そこでの経験の中で、私は日本人としてこの国に誇りを持ちたい、また、子供達にも誇りを持ってもらいたいと感じました。まずそれには、自国の現状や歴史についてしっかりと学ぶ必要があります。ただ学ぶにおいても、一箇所だけの学びですとどうしても一部の偏った思想が入ってしまうことがあります。ですので、幅広い見方をし、その中で自分自身の考え方を醸成してほしいと考えました。これから日本の歴史を学ぶ中高生には、まずは日本の良いところを学んでほしいと思います。今回、近現代史教育実践委員会は「誇り」というDVDを使用したプログラムにて協働運動を推進しております。しかし、今年5月の共産党の国会での代表者質問以後、このDVDが一人歩きしてしまった感があります。共産党はこのDVDの上映を企画したLOMに対して、事業の中止、中断を要望しました。しかし、この様な展開も日本JCにとっては想定内であったと思います。それでも取り組まなければならないし、続けていかねばならない問題であると考えていたのです。このプログラムは中学生が対象でありましたが、実際、中学生を対象としての事業は、全国で20ヶ所位のLOMでの開催となりました。しかし、メンバーや地域の大人へ向けての事業としては、全国でも150ヶ所位のLOMにエントリーしていただき、事業を開催することができました。この事業を地域で勉強し、協働運動の第一歩としてメンバーに広めていくには、良い一年であったと思います。「誇り」というDVDのタイトルから、JCメンバー内部からも、少し右寄りではないかという意見もありました。しかしDVDを見たメンバーの中には、その主旨に賛同し、私達以上に普及に力を貸したいという気持ちになってくれたメンバーもおりました。

川島: 私もこの「誇り」を何度か拝見しました。私自身としてはこのDVDに対し中庸的な考えを持っています。このDVDは、自分自身でもう一度歴史を振り返り、紐解いてみようという投げかけの内容であると思っています。そのポイントさえずれば、良いかたちでの協働運動ができると思います。もし今、私達がこの運動を否定したり、止めてしまえば、今まで2005年度から続いた汗と、戦ってきたメンバーの誇りを潰してしまう事になる。内容に

賛同できないメンバーがいるのであれば、その人は自分でもう一度歴史を紐解くべきだと思う。いずれにせよ、今後も日本JCの協働運動には注目し地域から日本を変革する為にも出来る限りのコミットメントをしていくべきだと思います。



一 地域政策について

川島: 日本JCといえば、私も2006年度に国民主権確立特別委員会へ出向させていただきました。出向したからこそ、LOMにフィードバックできることがあると思います。私がフィードバックしたことと言えば、公開討論会を通した地域行政についてです。昨年度より、マニフェストサイクルを回すべく事業に取り組んできました。本年度は、公開討論会から検証大会へと繋がる4年間のサイクル(選挙開催⇒政策実現⇒市民評価⇒政策実現⇒選挙開催)の中で、検証大会の前年に位置する年です。市民の声を吸い上げるための第一歩として、市民討論会に取り組んだ訳ですが、今回の取り組みによって、行政とのパイプを担うことができました。今後、このパイプをどのように太くしていくべきか。地域行政との携わり方について、どのような手法を考えてられるのかお聞かせください。

寺田: 本年度の取り組みによって、来年度は検証を行うのにふさわしい年になったと思います。そういった良いサイクルができつつあるな、というのが私の率直な感想です。この流れを絶やすことなく、来年、再来年と繋げていきたいと思っています。

川島: 絶え間なくアクションを起こしていけないと、せっかく出来上がった行政とのパイプもすぐに途絶えてしまいます。町田JCのトップとして、この部分の強化の為の方策を絶えず投げ込んでほしいと思います。そして、寺田次年度の08年度の方針を拝見させていただいた時、「地域力」がポイントになると感じました。地域力の「開発」と「推進」は、寺田次年度が最も意識するところだと思います。行政とJCが上手く連携していくことで大きな「うねり」になります。ですから、このパイプとなる部分は重要です。担当委員長だけに任せるのではなく、組織として引き継いでいける体制を整えてほしいと思います。また新入会員には、ただ単にJCの基礎知識を理解してもらうだけではなく、JCが街づくりや社会を変革させる様子を体感させてあげてほしい。そうすればもっとJCに入り込んでくれると思う。「地域力」という素晴らしい視点で「推進」なり「開発」をしていく訳ですから、来年はぜひ、新入会員からの組織としてのボトムアップを意識していただきたいですね。

—CD（社会開発）とLD（リーダーシップ開発）—  
川島：次年度の研修についての考えをお聞かせください。  
寺田：本年度、川島理事長はCD（社会開発）のLD（リーダーシップ開発）と仰られていますが、私も同感です。私達JCは何のために個人的な研修を行うのか。そこで得たスキルを地域で活かしてこそ、成果があると考えます。次年度でも研修委員会はLD系の研修を採用すると思いますが、自分をリーダーとして生かす場は地域にあると考えていただきたいと思います。

川島：“まちづくりの為のひとづくり”という考え方は私も同感です。ただ、今は社会が変革するスピードがとても速い。ですから、LDとCDのどちらが先かということではなくて、この二つを同時進行で進めていかないと、社会変革のスピードについていけないと感じています。

—会員拡大について—

川島：今、町田JCの組織としての最重要課題の一つに会員拡大が挙げられます。これについての展望をお聞かせください。

寺田：ここ数年の歴代の理事長は、会員拡大に真剣に取り組んでおられます。私自身もその必要性をひしひしと感じています。歴代の理事長や拡大委員長の姿勢を見習って、続けていかなければならないと考えています。会員数の減少によるデメリットを考えますと、まずはテクニカルな面では会費収入が減ります。組織のお金が少なくなるのですから、金銭面での事業規模が小さくなってしまいます。最も問題なのは、JCというのは、人と人によって磨きあって学んでいくものであると考えていますが、会員数が減少すると、JCの一番の魅力である人と人の磨きあいを、少ない人数でやらなくてはならない事になってしまいます。JCには年齢制限があります。メンバーは40歳で卒業を迎えます。だからこそ、絶えず新しいメンバーを増やし、組織を維持することが必要となります。次年度では、拡大の委員会の他に拡大連絡会議というものを設けます。各委員会の副委員長が出向してつくる会議体です。これによって各委員会が横の連携を持つことができます。副委員長は各委員会に共通の情報を持ち帰り、各委員会内で拡大について話し合ってください。ぜひとも、皆さんには当事者意識を持っていただき、会員の拡大に一丸となって取り組んでほしいと思います。

川島：出向形式の会議体ということですが、やはり私を含めメンバーは、少なからず会員拡大は誰かがやってくれるだろうというお任せ的な気持ちを持っています。そこをどう払拭するかが問題ですね。皆に拡大の必要性を認識していただくと共に、拡大を推進するための強いリーダーシップを持った人間を養成していくことが必要になります。ですから、そういった人材を養成するためのアクションをどこかで起こしてほしいです。ぜひとも、今年以上の成果を出して下さることを期待しております。

—公益法人制度改革—

川島：組織について最後の質問です。町田JCは約20年程前に社団法人格を取得しましたが、今また公益法人法の改正によって、公益社団格を取得するかどうかという岐路に立たされています。それに対する答えは寺田次年度の中で出ていると思いますが、次年度の組織としての政策をお話してください。

寺田：公益法人制度改革は2008年の12月1日に施行されます。2008年度だけで考えると、申請期間は12月のひと月だけとなりますが、理想はそのひと月の間に認可が下りることだ

と思います。とにかく来年一年間で、12月1日に申請できる体制を整えたいと思っています。現在の社団法人格を取得する時も、足掛け3年かかって社団法人として認可されたという経緯があります。来年一年間で取れば取るという気持ちで取り組みたいです。元々、この公益法人制度改革とは、法人を隠れ蓑にしている団体が多く、それを精査するというのが主な目的であったようです。我々は社団法人として公益活動してきた団体ではありますが、さらに透明性、公益性を高めて活動していくには良い機会だと思えます。その為には、公益法人の冠を取得することが一番であると考えていますし、何故必要なのか、その為の勉強を皆でしていきたいと思っています。

川島：公益社団格を取得するには、総会の開催が必要となります。ということは、会員全ての総意を得なくてはならないということです。全てのメンバーが公益法人の取得に対し意義を理解しなくてはなりません。そして、今まで以上に公益性のある運動展開をしていくためにも、公益社団格の取得に取り組んでいただきたいと思います。

—メンバーに対して—

川島：最後になりますが、次年度にかける意気込みとメンバーに向けてのメッセージをお願いいたします。

寺田：2008年度は、「今こそ活かせ！青年の力 時代に求められるJAYCEEたれ！」というスローガンを掲げてJC運動を行って参ります。私がJCに入り感じたこと学んだことを、一人でも多くのメンバーに伝えていきたいと考えております。次年度の基本理念の中に、「仲間を繋ぎ、地域を繋ぐJC運動」というフレーズがあります。この「繋ぐ」という言葉を一つのキーワードとして、運動を行っていきたく考えます。

川島：2008年度は、町田JCが設立して41年目の年になります。50周年に向けて、これからの10年のスタートを切る年でもありますので、私自身、40周年の節目の年の理事長として、次年度のバックアップができるように直前理事長として頑張ってお参ります。共に町田JCを盛り立てて参りましょう。本日はどうもありがとうございました。

寺田：こちらこそ、ありがとうございました。



設立40周年記念誌につきましては1月10日(木)開催する賀詞交歓会にてお渡し致します。

2007年 社団法人町田青年会議所 主な事業

### 2月度例会

「これからの中小企業の金融対策」  
～日本の経済の発展のために青年経営者としてできること～

2月度例会  
2007年2月8日(木)  
時間:19時00分～(18時30分より受付開始)  
会場:ホテル ラポール・千寿館 4F(ラポール)  
特別講師 藤原 上 藤原 下 11-8

入場料無料

講師: 平 将明 氏  
京福院議員

お問い合わせ: 社団法人 町田青年会議所  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18 フジビル87  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067  
http://www.machida-jc.com/

### ローカマニフェスト勉強会

社団法人町田青年会議所  
2月度勉強会  
「ローカマニフェストとは」

平成19年2月8日(木)  
時間:19時00分～(受付開始18時30分)  
会場:ホテル ラポール・千寿館 4F(ラポール)

講師: 竹内 幸次 氏  
町田青年会議所 副理事長

### 3月度例会

社団法人 町田青年会議所 3月度例会  
「コミュニケーションの達人になろう!!」  
「ディベートセミナー」のご案内

2007年3月8日(木)  
18:30 開演開始  
(18:00受付開始) 21:00終了予定  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 新入会員オリエンテーション

社団法人町田青年会議所  
新入会員オリエンテーション

日時: 2007年3月10日(土)  
10:00～12:00  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 3月教育フォーラム

### 4月度例会

JCI 社団法人町田青年会議所 4月度例会  
「本当の親子の愛情とは」  
～親子の絆で学力向上～

2007年4月12日(木)  
時間:18時30分～(受付開始18時)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 5月度例会

JCI 社団法人町田青年会議所 5月度例会  
「いま、若手経営者に必要な条件とは」

2007年5月10日(木)  
時間:19時00分～(受付開始18時30分)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### わんぱく相撲町田場所

JCI 第26回 市民アスタ  
わんぱく相撲町田場所

2007年5月13日(日)  
時間:9時30分～16:00  
会場: 町田市立町田第一小学校体育館  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 6月度例会

JCI 第19回わんぱく相撲東京大会

日時: 5月17日(日) / 場所: 町田市立第一小学校体育館  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 参議院議員選挙公開討論会

JCI 参議院議員選挙 東京選挙区  
公開討論会  
7月11日(水) 18:00開演  
なかのZERO大ホール

2007年7月11日(水)  
時間:18時00分～18:50開演  
会場: なかのZERO大ホール  
〒100-0001 東京都千代田区千代田1-1-1

### 7月度例会

JCI 社団法人町田青年会議所 7月度例会  
「リーダー育成のためのディベートセミナー」のご案内

2007年7月12日(木)  
時間:19時00分～(受付開始18時30分)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 境川クリーンアップ作戦

川を汚すな! CM大作戦!!

2007年7月20日(日)  
時間:9時30分～16:00  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 地球市民の日特別企画

地球市民の日特別企画

2007年7月20日(日)  
時間:9時30分～16:00  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 9月度例会

JCI 社団法人町田青年会議所 9月度例会  
「次世代の子どもたちを育てよう」  
～親子の絆で学力向上～

2007年9月13日(木)  
時間:18時30分～(受付開始18時)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 10月度例会

JCI 社団法人町田青年会議所 10月度例会  
「まちだ市民討論会」

2007年10月13日(木)  
時間:18時30分～(受付開始18時)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 記念フォーラム

設立40周年記念式典

2007年11月2日(金)  
時間:18時00分～(受付開始17時30分)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067

### 人間力セミナー

「掃除で心を磨こう」  
～人間力セミナー～

2007年11月2日(金)  
時間:18時00分～(受付開始17時30分)  
会場: 町田青年会議所 4F  
〒194-0013 町田市原町田6-17-18  
TEL:042-725-7565 FAX:042-726-9067